

「持続可能な米づくりの確立」の進捗状況

農山漁村振興課

○令和6年度末の進捗状況

(1) 主食用米の生産面積は、従前からの農地中間管理事業をベースとした取組により、水稻の担い手への集積面積は7,650ha、シェア率は48.7%となっています。

○主食用米担い手シェアの進捗状況

		H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
①	農地中間管理事業集積面積 (ha)	410	407	752	391	374	267	315
②	主食用米に換算 (*70%) (ha)	287	285	526	274	262	187	221
③	担い手の主食用米生産面積 (ha)	5,896	6,181	6,707	6,981	7,243	7,430	7,650
	主食用米の担い手シェア実績 (%)	34.3%	36.6%	39.9%	42.3%	45.0%	46.7%	48.7%

(2) 低コスト生産の実現については、国や県の補助事業を活用した低コスト技術の導入が進み、各地域で農業用ドローンを活用した広域的な防除や追肥、中山間地域におけるリモコン草刈機、高密度での播種・育苗技術や直播栽培等の導入が広がっています。

しかし、低コスト技術の導入は進んでいるものの、資材・光熱費の高騰や近年の気候変動等による低収量の影響で、生産コスト9,600円/60kgを達成できた担い手は全体の10.7%にとどまっています。

○導入技術数の推移

	R 3	R 4	R 5	R 6
技術導入経営体数	123	167	187	197
導入技術数	165	241	287	314
導入数/経営体数	1.3	1.4	1.5	1.6

○担い手の生産コスト削減目標

		R3	R4	R5	R6
生産コスト9,600円/60kg達成	(人)	32	17	34	48
水稻を主とする担い手 合計	(人)	409	404	450	449
主食用米の担い手シェア実績	(%)	7.8%	4.2%	7.6%	10.7%

(3) 気候変動への対応や水稻担い手の収益性改善に向けて、高温耐性品種への品種転換や、生産性の向上（品質・収量）を進めています。

○島根県主要品種の構成割合 (%)

	R3	R4	R5	R6
つきあかり	-	0.2	0.6	1.3
コシヒカリ	51.8	48.0	47.5	45.3
つや姫	8.3	10.0	10.5	10.1
きぬむすめ	31.7	35.0	34.7	35.7

※主要品種のみであり、合計は100%にならない



○担い手を交えた「つきあかり」の普及検討

○地帯別の平均反収と 520 kg/10a 以上達成経営体数

	平均単収 kg/10a	520kg/10a 達成者数	520kg/10a 達成率(%)
平坦部	487	31(26)	26.3
中山間部	441	7(1)	4.0

※()内は、520kg/10a達成者のうち、9,600円/60kg達成者の数

○島根県産主要3品種における1等米比率の推移 (%)

品種	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	平均
水稻うるち	71.7	64.0	64.7	72.1	66.3	55.9	54.0	64.1
コシヒカリ	63.2	56.8	64.9	70.1	56.3	55.7	61.4	61.2
つや姫	81.9	74.7	79.0	53.6	68.0	54.6	58.0	67.1
きぬむすめ	81.6	71.0	62.2	81.7	78.7	58.5	47.5	68.7

※R7.3月の国公表数値